

「上毛新聞」文芸関連記事リスト【5】

昭和2年(1927)4月～昭和3年(1928)3月

市川祥子

※「上毛新聞」の中から、小説・詩歌等の創作と、文芸に深く関わりと考えられる評論とをリストアップした。今回は、昭和2年(1927)4月から昭和3年(1928)3月を対象とした。

※①は第一面であることを、朝①は朝刊の第一面であることを、夕①は夕刊の第一面であることを示す。

※連載は初回のみを示し、(一)に終了日と回数とを付した。

※(1)は第一回であることを示す。

※*は判読が不能であることを示す。

昭和2年(1927) 4月

2日(土)

朝④春に多く発生する発狂即精神病 正木不如丘

夕③小学校卒業児童の半数は中学校へ

夕③都会は男より女の求人が多いそれも良くて女中悪くはドン底生活 警視庁人事相談課 小林主任(談)

3日(日)

夕③早春雑誌一、文芸復興、二、恋の春、三、

霜どけの日 島岡利二

夕③恥らひ、二月の朝「詩」 横堀真太郎

夕③牛口善衛忌(遺りし人々に捧ぐ) 角田栄治

栄治

夕③口語歌を難ず 生活歌の提唱 榎田薫

夕③無題「詩」 岡田美奈登

夕③春宵雑筆 煙草と私、ランプ 温井藤衛

夕③詩のこと 円明閑馬

夕③夕陽「詩」 中島じんえ

5日(火)

夕③春雨「短歌」 芳太郎

6日(水)

朝④昭和当初の天長節に大日本聯合女子青年団の発会式を挙行 理事長は山脇房子女史

夕②盗まれた愛「小説」(1) マーガレット・マクギル、根岸時雍(訳) (5月21日(29))

夕③和かな春先きは特に子供達の行動に注意 親の不注意から不良少年を作る 警視庁相談課 小林主任(談)

7日(木)

夕③大衆医学への前提 医学の家庭化 今日迄は家庭の医学化だが将来はもつと医学の

正解へ 正木不如丘(談)

夕③雨蛙のお祭り「童話」(1) 楠田敏郎 (4月16日(8))

8日(金)

朝④台湾修学行商(1) 同志社高商 加部勝夫 (4月22日(11))

夕③可愛い子供の職業を親達が決めるには 知的、経済、技術、力量の四型 親が見て何れに属するか

9日(土)

夕③育児は至難でない 自由に生活させよ 精神的束縛は最もよくない 食事は放任し 偏重させるな 正木不如丘(談)

夕③山の少女に「詩」 柳芳太郎

10日(日)

夕③鬼城句集を三誦して 中村竹邦

夕③宿命のきんたま 石原ちびき

夕③春日和、ほととぎす、妾しや山鳥「詩」 益子徳三

夕③楽音詩情「詩」 森千魁

夕③心臓の春「詩」 中島満之助

夕③無礼な墓場「詩」 市村京之助

夕③春が来る「詩」 丘辺草一

夕③えいくわん 伊藤信吉

夕③元惣社短歌会 街路樹社主催「記事」美丸／「短歌」 住谷三郎、神保冷平、福田

ヒロ子、若穂緑、阿久津孫市、三友市郎、須田衛、福島三郎、福島保夫、富沢富出

子、温井武治、富沢庄次、小野里紫茂子、福田喜久治、温井義信、大友勝利、永井

澄夫、金沢金夫、石井紫舟、邦多子、松井美根子、温井藤衛、関寛、中山輝月、

岡部竹風、上村直市、中里松次、右井成幸、高橋義郎、松井美丸

12日(火)

夕③頭の不好なのに不良児が多い実例

夕③古ノート「詩」 柳芳太郎

13日(水)

夕③生物学上人類の将来は智力に依つて亡る

夕③古ノート「詩」 柳芳太郎

14日(木)

夕③人間は生れ乍らにして零でも白紙でもない

夕③人間の秘訣とは先天的な能力を培ひ

夕③草木を培ふ喜びも母性愛の発露 山田わか子(談)

15日(金)

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

夕③死亡率の減少策より罹病率を低下せよ

(4月24日②)

夕③「落葉焼く山」を読む 岡田房樹

夕③冬日雑唱「短歌」 大沢勇

夕③春浅き日(1) 原田源次郎(5月1日③)

夕③春唱三篇「詩」 朝、女、街 高山要

夕③八斗島河原「詩」 長次郎

夕③惣社歌会短評「評」 榎田薫／「短歌」

田島武夫、小野里照親、順田衛、富沢庄

二、田中三郎、植村祐三、植村美津子、藤岡林城、藤田忠穂、大友勝利、中山輝

月、岡部竹風、住谷三郎、新井香溪、榎田薫、小野ゆうき、永井澄夫、斎藤市次

郎、中曾根白史、梅津綿一、柳田佐七、小坂橋市雄、福島三郎

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

きくえ、大友賢、小黒日露、北町妙子、桑島信子、萩原岩子、石平竹舟、大友武

子、原丘児、古屋覚三、星野赤陽子、高山まつえ、大友敬雄、高山芙路子

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

きくえ、大友賢、小黒日露、北町妙子、桑島信子、萩原岩子、石平竹舟、大友武

子、原丘児、古屋覚三、星野赤陽子、高山まつえ、大友敬雄、高山芙路子

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

きくえ、大友賢、小黒日露、北町妙子、桑島信子、萩原岩子、石平竹舟、大友武

子、原丘児、古屋覚三、星野赤陽子、高山まつえ、大友敬雄、高山芙路子

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

きくえ、大友賢、小黒日露、北町妙子、桑島信子、萩原岩子、石平竹舟、大友武

子、原丘児、古屋覚三、星野赤陽子、高山まつえ、大友敬雄、高山芙路子

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

きくえ、大友賢、小黒日露、北町妙子、桑島信子、萩原岩子、石平竹舟、大友武

子、原丘児、古屋覚三、星野赤陽子、高山まつえ、大友敬雄、高山芙路子

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

きくえ、大友賢、小黒日露、北町妙子、桑島信子、萩原岩子、石平竹舟、大友武

子、原丘児、古屋覚三、星野赤陽子、高山まつえ、大友敬雄、高山芙路子

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

きくえ、大友賢、小黒日露、北町妙子、桑島信子、萩原岩子、石平竹舟、大友武

子、原丘児、古屋覚三、星野赤陽子、高山まつえ、大友敬雄、高山芙路子

夕③みづ歌会詠草「記事」 高山要／「短歌」 柳芳太郎、小見梅寿、古屋栄吉、柳

夕③乳児死亡減少策は恐るべき黴菌予防

夕③乳児死亡減少策は恐るべき黴菌予防

21日(木)

夕③晩近の社会問題と少年職業指導運動 欧米に於ける発達と現状 東京府職業紹介

所長 豊原又男(談)

23日(金)

夕③職業撰択に大切な個人的差異と能力

夕③美しい心「童話」(1) 清野喜代志

夕③美しい心「童話」(1) 清野喜代志

24日(日)

夕③詩人小林太郎君を弔ふ 横堀真太郎

夕③童心歌「短歌」 島之郷小尋五 戸崎イネ子、同 石倉君江、同 武内三衛、同 吉田

君代、同 森下正子、同 高二 石川金太郎

夕③春の雨と雪「短歌」 土屋栄雄

夕③雑詠「短歌」 小坂橋幸

夕③苦悶、無題「詩」 高山要

夕③友の家 横堀真太郎君へ「詩」 岡部宇一郎

夕③恋情の破片「詩」 丘瑠璃夫

夕③ほゝ江み、蠟燭「詩」 善一

夕③懐かしく恐ろしき人「詩」 柯内垢人

26日(火)

夕③医学的に観たる死とは何ぞや 正木不如

丘(談)

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

27日(水)

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③伊香保土産 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

夕③ 斯の如き家庭から虚弱児童が生れる狭
い家 安月給取 子沢山 腺病質 栄養不良
非活動

夕③ 東京さつき会歓迎俳句会「俳句」(1) 鈴
木健一、田村貫水、平田豊水、黒岩漁郎、
温井淡映、宮内白鳩、久保田白鳥、上波
静好、竹原泉園、松本掬翠、平川雪堂、
山村風子、鈴木三笑、木村桂光、清水峰
江、西山秋涯、望月捧声、鹿沼佳月

28日(木)
夕③ 地方の青年男女は団体的に訓練せよ 三
田谷医学博士(談)

夕③ 東京さつき会歓迎俳句会「俳句」(2) 黒
岩漁郎(選) 掬翠、貫水、豊水、健一、
淡映／竹原泉園(選) 一楽、掬翠、幸一
路、培堂、淡映、健一、豊水、貫水、吐
秋／清水花鶯(選) 三笑、白鳩、泉園、
淡映／田村貫水(選) 其外、花月、佳月、
雪堂、掬翠、吐秋

29日(金)
夕③ 文字にとらはれ過ぎて起る家庭教育の弊害
倉橋惣三(談)

夕③ お竹「詩」 益子徳三

昭和2年(1927) 5月

1日(日)
夕③ 上毛写真画壇の近況附、作家への提唱
番裕也

夕③ 萩・柳書房 柳書房訪問「短歌」 大沢雅
休

夕③ 春日病中の記 横堀真太郎
夕③ 故郷恋し「短歌」 船津重雄

夕③ 「土」出版記念短歌会「記事」 高橋平
三郎／「短歌」 大沢雅休、角田蒼穂、須
藤泰一郎／大沢雅休(選) 病児に 植村
祐三、高橋繁、倉*誠一郎、高橋平三郎、
茂木新太郎、七五三木政勝、勅使河原蛭
草、堤種三郎、角田節子、倉沢正司、竹
之内菊松、茂木シグ子、高橋可三、大竹
正美、関上千太郎、勅使河原のり、大島
たつ、中山輝次

夕③ 原市野菊支社 社歌会詠草「記事」 一
峰／「短歌」 半田巖、浦野久子、富田順、
吉岡一峰、富田茂子、新井古仙、上原岩
雄、小坂橋幸、中山菊代
夕③ 高原抒情詩「詩」 梅沢泰助
夕③ 失恋の娘「詩」 室咲晃二
夕③ 月夜の聯隊「詩」 榎田薫

3日(火)
朝③ 松山より 中村元治
夕② 湯河原より 岡部栄信

夕③ 近代的図書館は日常生活の一要素 日比
谷図書館頭 今沢慈海(談)

夕③ 新吉の夢「童話」(1) 楠田敏郎
(5月12日(7))

4日(水)
夕③ 誤れるカロリー説と二木式の食養 二木
謙三(談)

5日(木)

夕③ 人間教育の第一歩 子供のお友達同志
倉橋惣三(談)

夕③ 都市の児童は体質悪化の傾向

6日(金)

朝④ 公娼存廃問題は制度改善主義
夕③ 肉食主義は誤まり 穀菜食がよろし 二
木謙三(談)

7日(土)

夕③ 悪性になり易い黴毒と近代人 根岸博
(談)

8日(日)

夕③ 象徴主義文学の曙光(1) 降旗足穂

(1)のみ確認

夕③ 太陽は沈む「詩」 岡田美奈登

夕③ 春宵漫想 現代語短歌に関する 岡田房
樹

夕③ 浅川英一氏の近著菊と洋菊の作り方を讀
ふ 柳芳太郎

夕③ お糸の感受性 東山光子

夕③ 麦踏む小春日「短歌」 尾内たつ緒

夕③ 上州村々、からつ風、広桃堰「詩」 益子
徳三

9日(月)

朝③ 正しく生きんとする職業婦人に此の悩み

10日(火)

夕③ 一般家庭に於ける育強方法の秘訣 正木
不如丘(談)

11日(水)

夕③ 幕末秘録 狂怒乱心「講談」(1) 渡辺黙禪

夕③ 幕末秘録 狂怒乱心「講談」(1) 渡辺黙禪

(翌年1月30日朝(3))

12日(木)

朝④支那問題の陰陽(1) 今文武

(5月14日(3))

夕②児童の新教養と真の性教育(1) 富士川游

(5月13日(2))

13日(金)

夕③養育法さへ正しくば異常体質も治る 竹

内薫兵(談)

夕③鉄の獣「童話」(1) 清野喜代志

(5月19日(5))

14日(土)

夕③労働者の子の死亡率 智識階級の子の四

倍

15日(日)

夕③白蓮女史来る 須藤泰一郎

夕③神沢君の駁論を機縁として(1) 榎田薫

(5月29日(2))

夕③午後の狂人 麻生春

夕③木瓜の花「短歌」 鈴木韋舟

夕③藤の花「短歌」 若穂緑

夕③亡き教へ子に捧ぐ「短歌」 松雨朗

夕③冬と娘、月と雪「詩」 清水房之丞

夕③お虎ヶ淵「詩」 菊沢茂

夕③春の風、春の小唄「詩」 岡部宇一郎

夕③五月の風「詩」 尾内たつ緒

夕③五月「詩」 朝、昼、夕 東山みつ子

夕③扉「詩」 善一

17日(火)

夕③自然は欠乏の組合せ 食糧争奪戦と人類

二木謙三(談)

夕③文部省が率先して玩具や絵本改善

夕③子供とお花畑 須賀原岩夫、上和田英樹

18日(水)

夕③食物と土地とは最も密接な関係 二木謙

三(談)

19日(木)

夕③家庭教育の核心は母子の関係事実 倉橋

惣三(談)

20日(金)

夕③血圧が高いと云つて無暗に恐れる事はな

い 正木不如丘(談)

夕③嘘のやうな話「童話」(1) 畑喜代司

(5月26日(5))

21日(土)

夕③食欲なきは病氣 友を欲せぬも病児 倉

橋惣三(談)

22日(日)

朝④地方自治の根本は社会教育振興 三土文

相(談)

朝④氏家句碑建設 碧梧桐氏執筆

夕②探偵秘録 乳房の行方「小説」(1) 菊池乱

雨

夕③そこまでと「短歌」 柳原白蓮

夕③歌人阿部鳩雨 処女歌集の出版と奇しき

結婚ローマンス 須藤泰一郎

夕③妻と夫の対話 ギリシヤ神話を好める 芳

太郎様へ「詩」 小野忠孝

夕③武蔵野だより 岡田怡川

夕③柳原白蓮女史歓迎歌会のこと

夕③便りにかへて「短歌」 神沢金夫

24日(火)

夕②盗癖や性的不良児は赤ん坊時代の不注意

新生児の本能的行為と教育と育児の根

本基礎 富士川游(談)

夕③児童愛護の精神と子供の権利を尊重親

権あつて子権なしと云ふ勿れ 民法の規

定以上に更に愛の強要 三田谷医学博士

(談)

25日(水)

朝④男子の模倣を斥ける女子体育方針 三土

文相(談)

夕②東京より 北甘閑人

夕③悲しくも心細いのは日本人の寿命でせう

夕③子供とお花畑 伝説人面草 須賀原岩夫、

上和田英樹

26日(木)

朝④夜の大阪(1) 竹内 (5月27日(2))

夕②高尾山より 北甘閑人

夕③牛乳のみの育児は斯かる危険あり 竹内

薫兵(談)

夕③ゾロースの作り方

27日(金)

夕③腹八合に医者不要 適応量とは何か 二

木謙三(談)

夕③光りの魚「童話」(1) 楠田敏郎

(6月9日(10))

28日(土)

朝④古桐新絃(別録二) 田島霞山翁 松村琴

莊

29日(日)

夕③「農民」創刊について 大沢雅休

夕③朝の青竹、初刃の散歩「詩」 清水房之丞

夕③天野の藤「短歌」 藤岡林城

夕③去年の夏「短歌」 杉田謙作

夕③朗かに口笛を吹く 帰郷随筆(1) 新井哲

夫

(6月12日(3))

夕③春のかなしみ、春のたわむれ「詩」 横堀

真太郎

夕③春五題「詩」 町田六合三

夕③畑からの途すがら「詩」 神倉長次郎

夕③上毛歌会詠草「短歌」 柳原白蓮(選)

小沢保三郎、塩原翠葉、清水基美、小川

千代、茂木信太郎、竹内茂登子、失名氏、

田所清子、加藤岸蔵、松林吐秋、松村俊

郎、植村祐三、根岸つねを、中曽根白史、

根岸千里、平渡鳴舟、町田六合三、高島

松治、横山良助、斉藤、神沢金夫、若穂

緑、島岡、市村末男、大島、大沢雅休、

住谷三郎

30日(月)

朝③古桐新絃(別録二) 養蚕長者 松村琴莊

昭和2年(1927) 6月

1日(水)

朝④古桐新絃(別録三) 十三媛屏風 松村琴

莊

夕③統計が語る不良児 冷い家庭の罪 母ない

可憐な人の子達 凡てが温情の欠陥から

夕③桑の実「童謡」 柳芳太郎

2日(木)

朝④古桐新絃(別録四) 養蚕新論 松村琴莊

夕③民族発展の根本は児童教育の徹底 真の

児童幸福の増進は児童研究所設置にある

三田谷医学博士(談)

夕③殿様蛙「詩」 狩野とみぢ

3日(金)

朝③香掛より 北甘閑人

朝④古桐新絃(別録五) 紫媛と清媛 松村琴

莊

夕③酒や煙草や茶や肉 何れも排撃せよ 文化

は不自然な生活を強ふその労れを刺戟

物に求める 二木謙三(談)

4日(土)

朝④古桐新絃(別録六) 天山先生と怨軒氏

松村琴莊

5日(日)

朝③伊香保より「漢詩」 星野斗北

朝④古桐新絃(別録七) 南洲公題字 松村琴

莊

夕③緑衣の六月 伊藤信吉

夕③夜の前橋、娘さん「詩」 益子徳三

夕③たより「詩」 土屋与志緒

夕③吉公の話 伊東伊豆

夕③提灯行列 民謡と小唄のこと、詩歌随筆の

こと 柳芳太郎

夕③「或日の椿姫」の唄へる「詩」 森千魁

夕③春の小曲「詩」 つゝじ、よもぎ 萩原友

明

夕③白蠟の風景画を歩む「詩」 降旗タルホ

夕③五月の花「詩」 岡部卯一郎

夕③朝「詩」 岡田湊

夕③午後「詩」 円明閑馬

夕③断章「詩」 桐原佐武郎

夕③太陽の没落した艸地、曇天「詩」 小野忠

孝

夕③小感 自己を凝視めて「詩」 島野一衛

夕③港の乙女、雨「詩」 市村京之介

夕③廻る「詩」 一条

夕③寂しい旅人「詩」 赤石木味男

6日(月)

朝③下村翁の銅像 目はすこし細いがほんも

のそつくりに出て来た 岡部さん心づくし

の事

7日(火)

夕③世界的教育運動と図書館の新使命 組織

的労働大衆の新しい要求 肉体的幸福と

智的生活の向上 今沢日比谷図書館頭

(談)

8日(水)

朝④上毛の教育及教育者に寄せて(1) 岡田怡

川 (6月12日(4))

朝④古桐新絃(別録八) 満腹経綸満腹文章

夕③社会的意義をもつ特殊教育の概要 異常

松村琴莊

児童の意義と教育 先づ身体虚張児童教育
(1) 三田谷医学博士(談)

(6月9日(2))

9日(木)

朝④小学校児童の結核予防感想文を読み(1)

森田敏夫

(6月10日(2))

朝④古桐新絃(別録九) 従軍行 松村琴莊

10日(金)

朝④古桐新絃(別録十) 諸家評語 松村琴莊

夕③下痢患者への注意 竹内薫兵(談)

夕③蚊柱「詩」 芳太郎

夕③検査ごっこ「童話」(1) 十菱愛彦

(6月23日(10))

11日(土)

夕③幼児は想像力で遊ぶ 玩具の必要はない

完成された玩具は直ぐ飽る 想像を助く

れば何でもよい 富士川游(談)

12日(日)

朝③女の先生にモダンガールの気分が横溢

して来た 余り面白くない近頃の傾向

朝④古桐新絃(別録十一) 鉄心亭歌 松村琴

莊

夕③指に書く小説 坂本伸一

夕③レ・ポアンに付て 新井哲夫

夕③晩春「短歌」 小板橋幸

夕③田子の浦より「俳句」 高橋香山

夕③田子の浦より「短歌」 小幡三千夫、須田

まもる、温井たけ

夕③榎田薫とか言ふ人に言つてやりたいこと

(1) 高橋平三郎 (6月26日(3))

夕③群師短歌会「記事」 恵美「短歌」 清

水もとみ、斉藤春夫、中野信治、阿部四

郎、相場光郎、神沢金夫、池田左膳、小

板橋寛、茂木信太郎、佐藤辰己、根岸千

里、小林卓蔵、清水恵美

夕③人喰ひ川附近、天野園の藤「詩」 菊沢茂

夕③茂林寺にて、花山公園、春の土産「詩」

岡部宇一郎

夕③五月薔薇「詩」 三木たけし

夕③独想「詩」 加藤みはる

夕③人間哲学「詩」 田島嘉之

夕③レストラン余情「詩」 加藤まこと

14日(火)

夕②古桐新絃(別録十二) 題旧鳥衫詩 松村

琴莊

夕③子供等には何故音楽や踊が必要か 音楽

や舞踊はその撰択が必要である 土川五

郎(談)

15日(水)

朝④古桐新絃(別録十三) 蚕桑余事 松村琴

莊

夕③湯元みやげ 市丸武二兄に「詩」 柳芳太

郎

16日(木)

朝④古桐新絃(別録十四) 頼門の弟子 松村

琴莊

夕②那須より(1) 北甘閑人 (6月19日(2))

夕③童謡や舞踊等は真価ある物を与へよ児

童芸術に対する一般の理解が必要 児童
芸術協会中沢理事(談)

17日(金)

朝④古桐新絃(別録十五) 三雉の一 松村琴

莊

夕③国際人としての日本人の長短 北米の排

日はやがて南米にも 興味あるデユネー

ブでの国民性 新渡戸博士(談)

夕③雨の湯街 市丸兄に「詩」 柳芳太郎

18日(土)

朝④新緑の草津(1) 青水 (6月19日(2))

朝④古桐新絃(別録十六) 養蚕真宝 松村琴

莊

夕③児童の将来を考へ職業指導を尊重せよ

職業は共存共栄の基 関谷龍吉(談)

19日(日)

朝④古桐新絃(別録十七) 敬宇博士 松村琴

莊

夕③古歌物語 倉梯山 須藤泰一郎

夕③感情を売る日 麻生春

夕③身辺雑話 寄贈雑誌お提燈の事(1) ふさ

ひこ・さいとう

(6月26日(2))

夕③ゑごの花「短歌」 福島三郎

夕③小波来る「短歌」 松本彦三郎

夕③近詠雑「短歌」 佐藤恒雄

夕④福助足袋の生ひ立ち見物 岡本二平

21日(火)

夕②古桐新絃(別録十八) 養蚕猶養士 松村

琴莊

夕③結核の先駆をなす児童期の腺病質 竹内
薫兵（談）

22日（水）

朝④古桐新絃（別録十九）蚕事分業 松村琴

莊

朝④東北紀行(1) 茂木 （〜6月30日(6)）

23日（木）

朝④古桐新絃（別録二十）余力学画 松村琴

莊

夕③記念事業としての児童保護機関 冠婚葬
祭の経費を善用し世界的に流行する新事
業 三田谷医学博士（談）

24日（金）

朝④古桐新絃（別録二十一）絵事小言 松村

琴莊

夕③良き未来の為に良き母性が必要 女性
の尊さは要するに母性愛にある 山田わ
か（談）

夕③鈴蘭電燈「詩」 狩野とみぢ

夕③髪長姫「童話」(1) 十菱愛彦

（〜7月8日(10)）

25日（土）

朝④古桐新絃（別録二十二）養蚕図解 松村

琴莊

夕③遠い昔「詩」 松本彦三郎

26日（日）

朝④古桐新絃（別録二十三）臨池論 松村琴

莊

夕②長野より 杉本

夕②涼台夜話 龍の面(1) 鶏助

（〜6月28日(2)）

夕③緑窓雜筆 子規と口語歌 大槻三好

夕③句抄「俳句」 新井古仙

夕③初夏遍旅即興詩篇「詩」(1) A夜汽車、
B夜汽車、C瑞巖寺、D松島、E青葉城

趾 横堀真太郎

夕③花の詩 岡部宇一郎

夕③新しい恋 伊東伊豆

夕③ある心「短歌」 船沢たかし

28日（火）

朝③「赤城山」の危機 五老峰

朝③小雨煙るきのふ香雨先生一回忌

夕②古桐新絃（別録二十四）愛用の印章 松

村琴莊

夕③こんな性質の人は正に発狂者と同じ 自
我を主張し過ぎる馬鹿 パラノイアとは
どんな？ 正木不如丘（談）

29日（水）

朝③花柳短篇 流れ星(1) しろかね・やすし

（〜7月2日(4)）

朝④土に帰り土に親め 農村を救ふ唯一の途

小出満二（談）

朝④古桐新絃（別録二十五）刻者は誰ぞ 松

村琴莊

夕②涼台夜話 金守薬師(1) 鶏助

（〜7月1日(3)）

夕③素人治療はすべて治癒困難に陥る 菱川

実雄（談）

30日（木）

朝④古桐新絃（別録二十六）藹々居士と緑雲

翁 松村琴莊

夕③栄養の部分的欠乏と偏食の恐るべき弊害

二木謙三（談）

昭和2年（1927）7月

1日（金）

朝④古桐新絃（別録二十七）梅所翁 松村琴

莊

朝④赤城句行脚(1) 玉兎 （〜7月3日(3)）

朝④實際問題としての宗教教育方法 教育と

混乱さすな 関谷龍吉（談）

夕③「良い母」を作る為め女子教育の必要

何んな先生も子の母には及ばぬ教育者と
しての母は絶対的存在 小原国芳（談）

2日（土）

朝④那須への旅(1) 茂木 （〜7月5日(3)）

朝④赤城句行脚(2)「記事」 玉兎／「俳句」

月光、鳴月、玉兎、仲春、奇峰、赤陽子、

東畝

朝④古桐新絃（別録二十八）以画奉公 松村

琴莊

夕②所謂赤城の開発とは人間臭く俗化する事
である 赤城はすでに開発し過ぎた あく
まで自然を尊重せよ 梅津芳三

夕③日本人は何れ丈け食べればよいか 適応
食に就ての説明 日本人には日本物を

二木謙三（談）

3日（日）

朝④古桐新絃(別録二十九) 維新志士遺墨展

覧会(1) 松村琴莊

(〜7月7日(3))

夕②涼台夜話 アイヌの恋 橘家鍋蔵の回顧録

(1) 鶏助

(〜7月7日(4))

夕③「上毛の温泉」を読む 畏友林豊君執筆

吉田緑泉

夕③旅装のまゝで亡兄に語る(1) 岡田怡川

(〜7月17日(2))

夕③初夏遍旅即興詩篇「詩」(2) 広瀬川、大洗

海岸、常磐公園、帰途、旅愁 横堀真太郎

郎

夕③留守 東山陽子

夕③黄蜂と恋(正午の緑野)「詩」 森千魁

夕③百合の詩其他「詩」 百合の葉 松本彦

三郎

夕③五月の郷愁、五月雨「詩」 土屋与志緒

夕③ぬれ燕、月見草「詩」 狩野とみぢ

夕③ウエトレス「詩」 南義雲人

夕③烟をめぐる「詩」 深沼弘胤

夕③樹蔭に寝る男「詩」 岡田美奈登

夕③ノスタルヂヤよ!「詩」 市村京之介

夕③風「詩」 小野忠孝

夕③女の踏んだカフェー「詩」 渋沢しま子

6日(水)

朝③「不如帰」の蘆花翁伊香保へ来る

朝④川柳選釋 涼み台(1) 青花(丸山清康)

(〜8月10日(23))

夕③不可解なる今日の我がダンスの流行 大戦の脅威から解放された欧州流行を追ふ

にも程がある 新渡戸博士(談)

7日(木)

夕③小児期の伝染病と治療上の知識に就て

竹内薫平(談)

8日(金)

朝④古桐新絃(別録三十二) 蘇峰先生(1) 松

村琴莊 (〜7月10日(3))

夕②くちびる「小説」(1) マアシア・マンテ

イン 根岸時雍(訳) (〜8月13日(23))

9日(土)

夕②下強戸の土地返還小作爭議 地主側惨憺

たる敗北 こんな事で調停委員会迄開く

事は地主に対しても誠に気の毒千万と須

永好氏述懐す

夕③社会生活の裏と婦人の犯罪 最も多い虚

栄からの窃盗 私生児圧殺や恨みの放火

(1) 花井卓蔵(談) (〜7月13日(3))

夕③白金の感触「短歌」 佐藤康

夕③船頭留吉「童話」(1) 横沢千秋

(〜7月19日(7))

10日(日)

夕③文壇の動き 大沢要

夕③流転の影に「短歌」 中曽根白史

夕③馬鈴薯の花 むしろ自分に語る言葉 温

井藤衛

夕③失踪後 杉田謙作

夕③かく片「詩」 加藤素

夕③伊香保小唄「歌謡」 伊香保の雨、物聞

山、伊香保絵はがき 大関五郎

夕③伊香保「歌謡」 湯の沢かじか、浴蘭楼、

伊香保の宝、伊香保の君 益子徳三

12日(火)

朝③古桐新絃(別録三十五) 終焉記(1) 松村

琴莊 (〜7月14日(3))

13日(水)

朝④一剣無敵「講談」(1) 御室鉄火

(〜12月3日朝(22))

14日(木)

夕③野良小唄「歌謡」 柳芳太郎

15日(金)

朝④古桐新絃(別録三十八) 二書を霊前に薦

む 松村琴莊

夕③児童の読み物と撰択上の注意 成人の理

窟より児童の自由意志 雑誌は教科書と

は趣が違ふ 倉橋教授(談)

16日(土)

朝④古桐新絃(別録三十九) 霞山遺稿 松村

琴莊

夕③銷夏閑題 地方色豊かな諸国の民謡(1)

木曾、潮来、伊勢、仙台、名古屋

17日(日)

朝④古桐新絃(別録四十) 霞山遺稿の概評

松村琴莊

夕③杏子の樹と兄 鈴木葦舟

夕③山小田「短歌」 町田六合三

夕③街の話 井田貞衛

夕③茄子の花、お清「詩」 狩野とみぢ

夕③流星(一幕)「戯曲」 杉田謙作

夕③純情思情、彼を待つ「詩」 菊沢茂

夕③生死と光耀 根岸要人

夕③ピクニック「詩」 蛇母、白薔薇 箱田喜

代兵衛

19日(火)

夕③医学的知識の通俗化の弊害 斉藤智二

(談)

夕③銷夏閑題 地方色豊かな諸国の民謡(2)

宮津、高知、博多、追分

20日(水)

夕②跳越の半日 青水

夕③欧米諸国に於ける児童保健事業(1) 斉藤

智二(談)

(7月23日(3))

夕③独りぼっち「詩」 柳芳太郎

夕③ピナの知恵「童話」(1) 十菱愛彦

(7月29日(8))

21日(木)

夕③児童劇には良き指導者が必要 児童芸術

協会 中沢理事(談)

23日(土)

夕③浮雲(名謡)「歌謡」 佐藤康

24日(日)

夕③痴人の言葉 杉田謙作

夕③昼寝の夢 或る二人の女性に「詩」 横堀

真太郎

夕③つりしのぶ「記事」 ひろたね／「俳句」

祐三、至仏、孤月、美津子、弘胤

夕③袋露次の男 深沼弘胤

夕③白い噴水 後期象徴派「詩」 降旗足穂

夕③六月の花「詩」 岡部宇一郎

夕③鶏の宣言、夜ふけ「詩」 小野忠孝

夕③村の春「小説」 原田源次郎

(1)のみ確認

26日(火)

夕①芥川龍之介服毒自殺

夕③母乳主義に培はれる美風家族制度 非母

乳主義の民族と個人主義 母の愛と母の

乳の偉大なる力 二本謙三(談)

夕③玩具の選び方(1) 田村耕(談)

(7月27日(2))

28日(木)

夕③腺病質の児童には海水浴は避けられたい

岡村賢二(談)

29日(金)

朝④図書館に対する疑義(1) 村中篁

(7月31日(3))

夕②伊勢崎町の国民講座八月月上旬開催 一般

体育と衛生 岡田道一／婦人運動と社会

事業 ガントレット恒子／国際心の涵養

新渡戸稲造／経済生活の向上 太田正

孝／食糧問題(課外) 陸軍少将 石川潔

太／社会問題 北沢新次郎／科学短講 西

田博太郎／文芸講演(課外未定) 萩原朔

太郎

夕②芥川龍之介氏の文芸葬

夕②聖者物語(1) 盆踊の起源 目連尊者の大供

養に始る(1) (7月30日(2))

夕③夏季の小児疾病は女親の全責任 竹内薫

兵(談)

30日(土)

朝③妙義山下より 岡部栄信

夕③姉妹の愛「童話」(1) 井上康文

(8月12日(10))

31日(日)

夕②聖者物語(3) 雪山童子と羅刹の偈文

夕③芥川龍之介氏を悼む 大沢要

夕③営舎の窓より、越後娘「詩」 清水もとみ

夕③夏花蟬鳴 芥川龍之介氏に寄する泡 清

水房之丞

夕③夜「詩」 円明閑馬

夕③双葉社夏季講習のこと

夕③訣別 小須田薫

夕③愛児浩の霊に「詩」 紫朗

昭和2年(1927) 8月

1日(月)

朝③聖者物語(4) 阿闍世王が帰仏する迄

2日(火)

夕②聖者物語(5) 祈禱を斥けた豪僧天海

夕③児童と暑中休暇 勉強の気分を作れ 小

谷日比谷図書館児童係

夕③瓜に茄子はならぬ 恐しい遺伝の話 低能

少女の子孫に百四十名の低能者

3日(水)

夕②聖者物語(6) 千観僧都と乞食坊主

夕②偶感録

夕③休暇中の子供には休と養との生活 日比

谷小学校長 中沢留(談)

夕③厄年「詩」 狩野とみち

4日(木)

夕②聖者物語(7) 良寛和尚と放蕩息子

夕②行商の旅 加部勝夫

夕③我が子に対しては愛に理性を加へよ 小
向喜美子(談)

5日(金)

夕③その対策を待つ 悲惨な児童生活 精神的
肉体的両面からの観察 適確なる対策は

児童相談所 三田谷医学博士(談)

6日(土)

夕②美術の秋を控へて 高村光雲「写真」

夕②東京から 川口準太郎

夕③赤ちゃんを困らせる母乳分泌の障碍に就
て 森田医学博士(談)

夕③農村児童は都会児より小さい 内務省衛
生局調査

7日(日)

夕③私のノスタルジア(1)、潮路断片 戸井田吉

夫 (8月21日(3))

夕③六里ヶ原、夜汽車「詩」 土屋与志緒

夕③雑唱「短歌」 ぶんじ

夕③ジャアナリズムと文芸家 根岸時雍

夕③七月廿五日の日記 室咲晃二

夕③旅より「短歌」 神沢金夫、若穂緑

夕③自辺流月「短歌」 福島三郎

9日(火)

朝③浅間山下の高原を迹ねて(1) 篠原蕭々子
(8月10日(2))

夕②故郷の真善美赤城山キャンプに対する上

毛学友会企画 鳥石

夕③特殊教育によつて馬鹿者を導け 不良少
年と誤れる画一主義 精神薄弱児さへ恵
れる教育 富士川游(談)

夕③新案鎖夏十法 岡部栄信

10日(水)

朝④活動写真の為に 春芳

11日(木)

朝④旅順より 十五聯隊消息(1) 小柳

(8月12日(2))

夕③乳幼児機関の模範 独逸の皇后館

12日(金)

夕③不良少年の簇生は国家将来の禍根である
不良少年の根絶に精神病学的新研究 警
視庁金子技師(談)

13日(土)

夕③恐ろしい台風のお話 藤原咲平(談)

夕③花の輕業「詩」 柳芳太郎

夕③白鳥「童話」(1) 十菱愛彦

(8月24日(8))

14日(日)

夕①新らしき村にまた新らしき恋愛 武者小
路氏と真杉女史ひとり悩む安子夫人

夕②美術の秋を控へて 日名子実三氏「写真」

夕③赤城山礼讃 須藤泰一郎

夕③交友録詩人の部(1) 清水房之丞、川辺潤三

郎、森千魁 谷崎潤子

夕③雨の音 島岡利二

夕③羅甸区、白い夕暮(未定稿)「詩」 高邨

邦夫

夕③八月の雲「短歌」 伊藤温子

夕③夏の夜の集い「記事」 大竹正美／「短

歌」 洒落、一花、のり子、正美

16日(火)

朝③女工さん盆踊り 故山をしのぶ其の唄の
ふし

17日(水)

夕③宵の踊「詩」 柳芳太郎

18日(木)

朝③鏡ヶ浦より 蕭々子

20日(土)

夕③南海の極楽 小笠原島の民謡 純朴で豊か
なる情操を持つ島人

21日(日)

夕③陶冬居句抄(山野歩行四日)「俳句」 光

山は無

夕③交友録詩人の部(2) 横堀真太郎、松崎仲

雄、伊藤信吉 谷崎潤子

夕③「樹の間の道」について 渡辺はる子

夕③裸婦習作「詩」 大槻三好

夕③蚊蜻蛉愚談 或掲示板のお話、兵隊さんと
音楽と平和 ふさひこ・さいとう

夕③赤城山に遊ぶ 赤城礼讃の須藤泰一郎氏
に「短歌」 植村祐三

夕③夏季余情「短歌」 池田広二

夕③西瓜を食ふ「短歌」 松本一夫

23日(火)

- タ③簡閲点呼余話 住谷
 24日(水)
 朝④赤城湖畔の天幕生活(1) 前中厩剣会
 (〜8月25日(2))
 25日(木)
 タ③黒い夢「童話」(1) 清野喜代志
 (〜9月7日(10))
 27日(土)
 朝④館山沖を眺めて(1) 登丸栄一
 (〜8月29日(3))
 タ③栄養としての母乳の効果に就て(1) 広瀬
 医学博士(談) (〜8月31日(3))
 タ④幻の影「小説」(1) 楠田敏郎
 (〜翌年2月4日(4))
 28日(日)
 タ②満州北支那庭球巡礼記(1) 立教大学主将
 平沢雅夫 (〜9月1日(4))
 タ③ペンにまかせる(1) 新井哲夫
 (〜9月27日(2))
 タ③交友録詩人の部(3) 針谷しよを、井田貞衛
 谷崎潤子
 タ③雑感(1) 横地正次郎 (〜9月4日(2))
 タ③築地小劇場来る 栗原暢治
 タ③築地の「郭公」を聴く 横堀真太郎
 タ③編集雑記 やなぎ
 タ③湯原温泉のたより「短歌」 植村祐三、大
 竹正美
 タ③初夏・淡宵「詩」 森千魁
 タ③夏街、銀座を嗤ふ「詩」 箱田喜代兵衛
- タ③思出淋し「詩」 室咲晃二
 タ③タイピスト、朝「詩」 佐藤八郎
 タ③こぼろぎ「詩」 金井七四郎
 タ③桑摘小唄「詩」 狩野とみぢ
 タ③夕立後「詩」 沢沢志満子
 31日(水)
 タ②甘楽行旅(1) 田中翠璋
 (〜9月14日(14)まで確認)
 昭和2年(1927) 6月
 1日(木)
 朝③美術の秋を魁ける二科展に清水刀根君入
 選する
 朝④時の鐘の紙碑 角田柳作
 タ③不良少年の心理は原始人に等しい 犯罪
 に就いての考察 ロンブローゾの説
 2日(金)
 朝③よき童話の小父さん 齊藤總彦クンの神奈
 川県入り
 3日(土)
 朝④芥川龍之介の死を讃美して自殺
 タ③知識階級の家庭にも目標を外れた教育法
 子供には階級意識を吹込むな 教授も車
 力も等しく社会の人 倉橋惣三(談)
 4日(日)
 タ①けふの感想 水村
 タ③鳩雨のにんげんと歌と 橋田東声
 タ③山峡秋声「短歌」 田島武夫
 タ③母が家居を訪れ「短歌」 松本かずを
 タ③万葉集に現れた二三の語句について 米
- 文二郎
 タ③龍助と盆踊り「詩」 大槻三好
 タ③あはれさよ 鉢原
 5日(月)
 朝②徳田秋声夫人順子の財産差押へ 増川弁
 護士の債務関係
 6日(火)
 タ③華やかな文化の裏に哀れむべき浮浪児
 乞食や不良少年の成れの果その原因と
 為すべき救済
 タ③不良少年は精神に欠陥がある 原因は遺
 伝或は酒精中毒其の他 警視庁 金子技
 師(談)
 7日(水)
 タ①生方敏郎君夫婦別れの一卷 離婚ではな
 いと語る
 タ③小さき天文学者ガゼンデ君のお話 柳芳
 太郎
 8日(木)
 タ③臆病風「童話」(1) 坂井比良助
 (〜9月13日(4))
 10日(土)
 タ②自分の子供を優等生にするには 中山文
 化研究所 吉田医学士(談)
 11日(日)
 タ③子持嶺や「俳句・書」 植村婉外
 タ③私のノスタルジア 上山草人氏を訪ふ
 戸井田吉夫
 タ③月光を汲む「詩」 菊沢茂

夕③どつちが真実 カフェー・ド・パリの夜

〔戯曲〕 ふさひこ・さいとう

夕③形而上学的な夕暮 後期象徴派〔詩〕 降旗足穂

夕③浅間の麓〔短歌〕 土屋与志緒

夕③モダンガール〔短歌〕 福島三郎

夕③黒瀧の路(1)〔短歌〕 岩瀬繁

〔1)のみ確認〕

夕③郊外初秋〔短歌〕 小池文鳥

夕③こほろぎ〔短歌〕 米文二

夕③しねまと秋〔詩〕 森千魁

夕③桔梗会の文芸講演に出席する 柳芳太郎

夕③みやま歌会〔記事〕 植村美津子／〔短歌〕 柳芳太郎、植村婉外、阿久津白蛾、

青山丈夫、斉藤桂花、横山青蛙、高橋平

三郎、倉沢正司、倉沢誠一郎、大竹正美、

竹ノ内菊松、高橋誠、植村祐三、植村美

津子

12日(月)

朝③ほまや〔俳句〕 一茶

13日(火)

夕③華道のお話 華心流華道家元 狩野華城

(談)

14日(水)

夕③うらなりの〔短歌〕 芳太郎

夕③暴君の最後〔童話〕(1) 井上康文

(9月20日(5))

15日(木)

夕③玩具や絵本は何れも小供等の生活の表現

親達の注意すべき其撰択標準の諸点

倉橋惣三(談)

夕③寄席いろはで〔短歌〕 芳太郎

16日(金)

夕③思ふこと〔短歌〕 芳太郎

17日(土)

夕③蛇を吞む〔短歌〕 芳太郎

18日(日)

夕③昼かやや〔俳句・書〕 植村婉外

夕③無題 まへがき、故郷の人に 塚越麗一

夕③茅の輪会の事 大竹正美

夕③法師に遊ぶ(1)〔短歌〕 青山丈夫

(10月16日(2))

夕③枇杷の実 杉田謙作

夕③初秋点情〔詩〕 塩野筍三

夕③月光礼讃 柳氏の小さき妹へ捧ぐ〔詩〕

菊沢茂

夕③白けた灯〔詩〕 佐藤八郎

夕③雨〔詩〕 田島嘉之

夕③行く友へ〔詩〕 大島みとし

夕③母の横顔〔詩〕 金井詩夢

20日(火)

夕①仲の悪い蘇峰氏とも手を握つて徳富健次

郎氏十八日夜伊香保で客死す 十五年ぶ

りて相会した劇的シーン

夕③将来の人類に望む 仏教の根本的使命仏

陀は人間宗教を説いた 高楠順次郎

(談)

夕③古真座を〔短歌〕 芳太郎

21日(水)

夕③赤ちゃんの可愛さは不調和な型からです

石橋医学博士(談)

夕③子供とお花畑 朝顔はなぜ朝咲くのでせ

う 上和田英樹、須賀原岩夫

夕③熊の馬鹿〔童話〕(1) 楠田敏郎

(9月30日(7))

夕③花売りの〔短歌〕 芳太郎

22日(木)

夕③野良に立つ〔短歌〕 芳太郎

23日(金)

朝③星野斗北氏訃

夕③日本仏教の発達は偉大な女性の力に依る

皇室とも古くから浅からぬ因縁あり

村上専精(談)

夕③栗の実の〔短歌〕 芳太郎

24日(金)

朝②一代の文豪蘆花翁を永遠の国に送る悲し

き儀式 蘇峰翁泣き会葬者嗚咽

夕③低級に唄れる子守唄 疲れて眠る子供は

どんな夢の国にあそぶでせふ 無視され

た子守唄について

夕③つと闇に〔短歌〕 芳太郎

26日(月)

朝②星野斗北氏告別式盛儀

27日(火)

夕③映画随想片 佐藤雪夫

夕③やがて冬だ 義信兄へ〔詩〕 温井藤衛

夕③どつちが真実II 或アパートメント(増

田の家」〔戯曲〕 さいとう・ふさひこ

夕③秋〔詩〕 市村京之介

夕③藤岡のぎく支社歌会詠草〔記事〕 加

藤ノ〔短歌〕 木村亀道、佐藤はるじ、西

島享、根岸きよ、島田まさ、根岸つね夫、

石淵貞、加藤岸蔵

28日(水)

夕③秋の天地と活動窓 児童の求むる遊び場

恵まれた田園児童の自由天地 都市に児

童遊園地を多くせよ 東京日比谷公園児

童係(談)

夕③根生姜に〔短歌〕 芳太郎

29日(木)

夕③モガ風俗漫談 頬には小悪魔脚には恋人

の顔

夕③競技を見つゝ〔短歌〕 芳太郎

30日(金)

朝④いよ／＼具体化す産児制限研究 重大な

る社会問題だと社会局では成行を注視

朝④犯罪はまったく社会の病氣 社会一同が

注意し自覚してこれを全快せしめねばな

らぬ

夕③情意の修養には最も映画教育が必要です

人間描写に含まるゝ特異なる教育的価

値 仲木文部省映画部主任(談)

夕③男まさりの〔短歌〕 芳太郎

昭和2年(1927) 10月

1日(土)

夕③近來盛んになった女子体育運動 校庭拡

張グラウンド新設運動具購入の基金募集
が流行する

夕③塩豆に〔短歌〕 芳太郎

夕③紙の身体で〔童話〕(1) 茶合八郎

(10月7日(5))

2日(日)

夕③整理 東宮七男

夕③小窓隨筆 歌と絵のこと 大槻三好

夕③漫画二題 伊東伊豆

夕③思慕詩篇〔詩〕 A旅情思慕、B緑蔭思

慕、C感情思慕、D山岳思慕 横堀真太

郎

夕③昼と夜との時間的色彩境界に添付する

マード〔詩〕 津田秀夫

夕③秋の風景と私の横顔 私を知つてくれる

親しい友に捧げる〔詩〕 温井義信

4日(火)

朝②公娼全廃の効果 私娼も減少す 反対者は

此良果を何と見る 全国の統計を熟読せ

よ

夕①全国婦人同盟 芝協商会館で発会式 労働

婦人百数十名集会 婦人の地位向上其他

を誓言

夕③母性としての婦人は胎教を無視するな

生れ出る前に既に教育がある 昔の思想

が再び考へられた今日 富士川游(談)

夕③狭庭辺の〔短歌〕 芳太郎

5日(水)

朝④山形記行(1) 津久井省己(10月9日(5))

夕③橋林寺にて〔短歌〕 芳太郎

6日(木)

朝④私生児は認めぬ児童扶助法案

朝④智識階級専門の失業対策成る

夕③子供の要求するのは遊戯が主玩具は従で

す 遊戯心は先天性のもの 注意して玩具

を与へよ 富士川游(談)

夕③いさゝかの〔短歌〕 芳太郎

7日(金)

夕③求むる女性の美は生活の合理化から 日

常生活をアートとしての美容法 心理美

と肉体美との合致

夕③閨淋し〔短歌〕 芳太郎

8日(土)

朝④大日本聯合女子青年団 十日いよ／＼ 発

会式を挙行 引き続き指導者大会も開く

朝④夢中に遊んで陥り易い不良性 秋晴運動

シーズンの此頃 子供の遊びに注意せよ

夕①若き経済学土妻と合意心中 芥川氏の死

を讃美して厭世らしい原因

夕③子供が教育される家庭のもつ力の考察(1)

倉橋惣三(談) (10月13日(4))

夕③真清水の〔短歌〕 芳太郎

夕③怨みを恩で報ず〔童話〕(1) 松長照夫

(10月22日(10))

9日(日)

朝④日本婦人の最大汚辱 同性の奴隸的生活

我が婦人問題としての廃娼は国際的環境

の裡にあり 基督教婦人矯風会 久布白

落実(談)

朝④全国五十ヶ所に乳幼児保健所

夕③演劇断片語 加賀屋知義

夕③伊香保抄「短歌」 九官鳥

夕③劇と音楽の夕べ雑感 大和丑郎

夕③北窓亭詩筆 森千魁

夕③初秋雑詠「短歌」 池田広二

夕③秋風恋文 清水房之丞

夕③農民読後 羽鳥健男

11日(火)

夕②室田町で文芸座談会 八日夜開く

夕③浅川英一氏の近著四季の園芸を繙く 一

記者

夕③いたづらに「短歌」 芳太郎

12日(水)

朝④山形から仙台 博覧会見聞記(1) 前橋市

議視察第一班囑託 茂木本社記者

(10月21日(8))

夕③色あせし「短歌」 芳太郎

13日(木)

朝③報ひられた努力 帝展初入選の佐波出身

森村酉三氏 新設の第四部工芸部

夕③絵本はすべて友誼的なものを 子供は絵

本にある自分の生活を楽しむ

夕③旧く歌へる「短歌」 芳太郎

14日(金)

朝③「肉弾」の桜井大佐橋本園太翁を『赤城

の夕映え』の主人公に踊らせるまでの美

しいエピソード(1) 茂木本社記者

(10月16日(2))

夕①輝やく栄光 前橋の郷土美を丹青に現は

した塚本君 帝展洋画部四度の入選

夕③五尺の男子にも当然貞操の義務がある

大審院の新判決例に依つて男女の道徳は

法的にも対等 横田前大審院長(談)

夕③愛の言葉 バイロン、マアテルリング

夕③少年追想「短歌」 芳太郎

15日(土)

朝④全国仏教徒に対し禁酒運動を希望す 排

酒主義はキリスト教のみでない仏教ま

た絶対的禁酒主義 高島米峰(談)

夕③現代の青年子女は義務と犠牲に生きよ

新渡戸稲造(談)

夕③松竹院にて「短歌」 芳太郎

16日(日)

朝④旧習慣を打破して女子補習教育振興専

任教員充実と共に諸般の施設の完備に

夕③絵画と写真(1) 番祐也 (10月23日(2))

夕③秋雑詠「短歌」 神保冷平

夕③涼風小詠、コスモス「短歌」 藤倉肇

夕③紹介其の他 東宮七男

夕③浜島その他「短歌」 佐藤恒雄

夕③友吉君の死を悼む 室咲晃二

夕③丘、ひぐれ「詩」 斉藤三郎

夕③秋、公園「詩」 河合岩雄

夕③子供の手紙に接して「詩」 茂木信太郎

夕③哀愁の日 故郷の恋人を想ひ「詩」 島野

一衛

夕③師範学校歌会「記事」 中野／「短歌」 斉

藤遊雲、神沢金夫、斉藤春夫、茂木信太

郎、清水基美、根岸千里、須田弥助、阿

部四郎、佐藤絶海、小林卓蔵、相場光郎、

中野信治

夕③内省第一 自称詩人のことども 柳芳太

郎

19日(水)

朝④興味ある事実を語る性病感染原因の統計

公娼全廃は果して性病の蔓延を誘致す

るか

夕③宗教家の大きな使命は婦人児童の教化に

ある 超宗派的立場から体験に依つて導

け 矢吹慶輝(談)

夕③四歳から六歳迄玩具教育時代 玩具撰択

を慎重に 適当なる玩具分類

夕③重雄兄に「短歌」 芳太郎

20日(木)

朝④宗教儀礼で女子の情操を涵養す 旧訓令

を打破せよと高女校長大会で提唱

夕①十六七歳位の工女に是れはしたり花柳病

が多い 驚いた保険署で調査の結果飲食

店を中心に売春の事実を発見 暴露した

風紀紊乱の実際

夕③伊香保にて「短歌」 芳太郎

21日(金)

朝④国史に修補さるゝ長慶天皇の御事績 御

陵墓の御決定は至難

朝④宗教家と聯絡し体育思想普及 民衆強化

を重んずる文部省の新しい試み

夕②燈下余談(1) 武蔵国宮古川 石枕の伝説

夕③先生からの絵具「童話」(1) 横田桃水

(〜10月25日(3))

夕③つぎ木細工の「短歌」 芳太郎

22日(土)

夕①秋声氏の懷から順子離れ去る 十一月五日は正式の結婚式を挙げるといふのに発作的に行はれた家出

夕②燈下余談(2) 西念寺嫁威し肉附面の話

夕③ねむごろに「短歌」 芳太郎

23日(日)

夕②燈下余談(3) 累の済度に用ひた祐天上人のけさ

夕③赤城登山「短歌」(1) 松浪

(〜10月30日(2))

夕③音楽寸言 今度の音楽会に就いて 奈良春枝

夕③少女との散歩 麻生春

夕③走馬燈「短歌」 杉田謙作

夕③山鳩「詩」 土屋与志緒

夕③八木原短歌会「記事」 樋口拓夫／「短歌」 村上穆之、新井香溪、神保冷示、樋口拓夫、房恵女、後藤福太郎、小池雅風、角田節子、鈴木つぎ、村上千ぬ、村上順子、黒崎冷月

夕③昨日の詩のやうである「詩」 温井藤衛

夕③秋すこし寂しい風景「詩」 田島嘉之

夕③辻音楽「詩」 岡田湊

夕③二科展の空気「詩」 大島みとし

25日(火)

夕②公娼廃止の署名にみる都会生活の一断面 素通りの兵隊さんとモガ芸者や女給の賛成と学生

夕②燈下余談(4) 樗貧の報ひ 犬になつた話 秩父の栄福寺に伝はる伝説

夕③花を葬ふ「短歌」 芳太郎

夕③幸福になつた弟「童話」(1) 畑喜代司

26日(水)

朝④文相の主唱で生れる仏教音楽研究の機関 愈々原案起草に着手 三年継続経費三万円

夕②燈下余談(5) 霊夢に現れた行基の観音

夕③犬と狼とが仲の悪くなつたお話「童話」(1) 横田桃水

(〜10月29日(4))

夕③社会的因襲と結婚生活の倫理化 文化の向上と人種の改良を目的とすべし

夕③新嫁披露情景「短歌」 芳太郎

27日(木)

朝②直訴した女は政治狂 婦人にも男子同様の権利を与へて欲しいと言ふ意味の訴状 内容 身柄は警察官に引渡す

朝④太陽の黒点の影響で未曾有の大雪や雨が降らう 一三年は天変地異が続くと 京都帝大の山本理學博士予言

夕②愈々実施される花柳病予防法

夕②燈下余談(6) 静御前の舞雨を降らす

夕③お月夜「詩」 島之郷校長沼正治

夕③婚礼回想「短歌」 芳太郎

28日(金)

夕③玩具は年齢に応じて夫れど意義を持つ運動と空想の助長 独創力其他の培養

夕③カフエーの女給さへ映画女優を望まない 若い女の女優志願は無智で世間知らずから 或る撮影部長さんの話 <キネマ>

29日(土)

朝③不思議な声「童話」(1) 久留島武彦(述)

朝③おとなも子供も夢幻の境地に引き入れられた柳座の「子供の夕べ」の催し

朝③廃娼舌行脚 森川抱次

夕③世界第一の短命国 我が現状を直視せよ 瑞典の体育歴史を見て国民体育に留意すべし

30日(日)

朝④宗教童話聯盟が児童教化運動 地方支部を設置して趣旨の徹底に力むる

夕③私のノスタルジア 続、上山草人氏を訪ふ

(1) 戸井田吉夫 (〜11月27日(5))

夕③日曜文芸を読んで 原沢柳志

夕③情のある風景 渡辺はる子

夕③緑泉山房を訪ふ「短歌」 田島武夫

夕③仲仙道の並木「短歌」 富沢美出子

夕③母の愛を懷ふ「短歌」 茂木信太郎

夕③燦飾の街、窓「詩」 津田秀夫

夕③晩秋「詩」 栗原みち

夕③失恋合唱 岡部宇一郎

夕③編集末筆 芳太郎

昭和2年(1927) 11月

1日(火)

夕③人口食糧調査に禁酒問題を加へよ

夕③山からかへつた幹男「童話」(1) 横田桃水

夕③亀茲国の夢物語「童話」(1) 金子光晴

夕③(11月9日(6))

夕③(11月10日(7))

2日(水)

朝④財界はドン底の現象 明年頃から立直つても良い 井上辰九郎(談)

夕③雑誌や玩具を扱山やるは禁物 粗末にする癖が付く 子供雑誌の必要条件

夕③(11月10日(7))

3日(木)

朝④宗教教育の必要から訓令撤廃の運動開始 宗教教育聯盟の徹底を期して立つた基督教徒

夕④我が国に於ける売笑婦の歴史 勅撰歌集の遊行女婦静御前や亀菊の存在 富士川游(談)

夕③都会に於ける女中難を緩和する家政婦時代 上流家庭のみでなく 一般家庭の需要増加

夕③明治節を祝ふ「短歌」 芳太郎

5日(土)

朝④暗に動く醜い社会相 人肉の市の開展や不良少女横行 官署の係官の目が光る

夕③(11月11日(2))

夕③ドン底の不景気に真面目なる職業婦人 事務員より手芸及び美容師の希望者が多い

夕③買ひつけの「短歌」 芳太郎

夕③日本映画の変遷と所謂剣劇の問題 時代映画と取材の範囲

夕③私娼を南部に移し集娼地にする 前橋市 一部有志計画 阿部県議も賛成の口吻

夕③恐る可き性病と公私娼廃止問題 統計が示す売淫と性病 我国と独逸が最も多い

夕③破魂「短歌」 早水城春

夕③痴人の言葉 杉田謙作

夕③一人身「詩」 古屋三郎

夕③文芸映画時代 佐藤雪夫

夕③こころつまへ贈る詩「詩」 知慧保夫

夕③柿の実「詩」 田島嘉之

夕③現代の悩と救(1) 浅野孝之(述)

夕③(11月15日(8))

8日(火)

夕③亡国の傾向を帯び中産階級の享楽観 家庭経済を度外視した俸給生活者の物見遊山

夕③夕の行列「短歌」 芳太郎

夕③女子教育向上に男女共学奨励 文部省の賛成を得て龍谷大学先鞭をつく

夕③猿の王様「童話」(1) 横田桃水

夕③(11月16日(3))

夕③秋風「詩」 狩野とみぢ

夕③待てばよいのに「童話」(1) 横田桃水

夕③(11月16日(3))

夕③秋「詩」 岡部宇一郎

夕③鉛筆「詩」 高橋誠

夕③農村没落の或一面観と農民文学 原沢柳志

夕③深秋閑話 羽鳥健男

夕③美しき太陽 島岡利二

夕③いなごとの男 麻生春

夕③妙義山頂にて、磯部温泉「短歌」 植村祐三

夕③(11月16日(3))

夕③名士の素人美術展観 展覧会評(1)

夕③(11月16日(3))

夕③内も外も大人と異ふ子供の身体 少しの消化不良も死因 鼻風邪でも直ぐに肺炎

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

夕③(11月16日(3))

石橋医学博士（談）

夕③欧風化する日本映画 モダンリズムの変態移入と所謂大衆向といふこと

16日（水）

朝③本社主催素人美術展 等級別審査成績決定 洋画瞥見 八木淳一郎／洋画の部 概評 曾根末次郎、斉藤始雄／美術工芸品及彫刻之部 近藤将照／篆刻部概評 林庸太郎、中沢広勝

17日（木）

朝③本社主催素人美術展 等級別審査成績決定 日本画審査報告 武居保／書の部 審査概評 松村琴翁、中沢広勝
朝③女工を中心の社会的施設を研究 婦人相談所も拡張し工女の教化に果て努力
夕③新桃太郎「童話」(1) 横田桃水

（11月25日(6)）

夕③斯様にして向上する児童音楽思想 文部省の諮問に対し野口雨情氏等の答申

夕③佐波秋季歌会「告知」

18日（金）

夕③苦勞すればとて何故自殺者が多い 心にゆとりがない証拠 生命を軽んずる日本人 石川仁一郎（談）

夕③冬枯れ「詩」 青木寿雄

19日（土）

朝③本社主催素人美術展 民衆審査の投票殺到

朝③素人美術展覧会成功を祝して 群馬県商

品陳列所長 湯原直平（談）

朝③修身国語の權威者を揃へ本県師附の冬季講習

夕③欺された魔王「童話」(1) 進藤泡影

（12月3日(10)）

夕③不景気と読書界 雑誌が大威張の現象 読書週間三年目も振はず 円本乱読と解約者の出現

20日（日）

朝③本社主催素人美術展 人気を中心となつた投票

朝③工場主も諒解して婦人相談所の主任江原女史を中心に工女指導者懇談会を開く

夕②闇に咲く花 私娼の調査 生活難の物凄い世の裏 公娼以外に尚此の地獄

夕③仏文豪モリエルの「タルチュフ」を観る 佐藤雪夫

夕③寂寞の秋「短歌」 豊田宏文

夕③文芸偶像破壊時代 小泉蘭児

夕③耕人の歌「短歌」 木村亀道

夕③風「詩」 降旗足穂

夕③星辰よ「詩」 新井悦三

夕③秋窓より「詩」 藤園香里

夕③進化「詩」 立見米一

夕③秋点情「詩」 小野忠孝

夕③石地蔵の訴へ「童話」(1) ト部貴良磨

21日（月）

朝③児童愛護をモットウに日本童話協会前橋

支部を設立 発会式を兼ねた児童大会

二十七日柳座で開く

朝③廃娼県の悩み 花柳病予防法実施に伴ふ診療所費の支出に本県当局首をひねる

朝③本社主催素人美術展 投票成績決定

22日（火）

夕①水野文相敢然として芸術教育を厳禁 薄卑近な芸術は児童教育を誤ると

夕③子守と音楽(1) 原沢柳志（11月23日(2)）

23日（水）

朝④映画界現況と児童教育との関係 善用せば社会教育的効果は挙げられよう

夕③単純さを失はせる不適当な子供雑誌滑稽と情緒と想像とは総て度を越さぬ様子

意

夕③春を待つ「詩」 萩男

25日（金）

朝③本社推薦緒家書画会の盛況

夕③待遇改善を待つ女中さんの現状

26日（土）

朝④優生学的見地から民族體質改善 未だ癩患者精神患者を去勢するの可否決せず 一面人道上の大問題

夕②わが国伝来の徒弟制度 年毎に没落してゆく 恐るべき労働争議の影響

夕③今日の社会文化が不良少年を生んだその名称は極めて不当である 彼等は機能性異常体質者(1) 富士川游（談）

（11月29日(2)）

27日(日)

朝③積木のお城を幻想させる童話大会は父兄

母姉を中心に今夕柳座に蓋を開ける

夕③秋の夜曲はる、渡辺に贈る、とんぼ「詩」

横堀真太郎

夕③落月風景「詩」高山要

夕③北窓の秋 森千魁

夕③飯島鶴子氏の墓に詣りて(1) 赤木馬彦

(12月25日(4))

夕③或る心象タイトル Aある殺人の風景、

B少女のゐる風景 竹内悦雄

夕③秋風落莫「詩」角田青二郎

夕③日曜文芸の詩をよんで 原沢柳志

夕③師範短歌会「記事」もとみ／「短歌」須

藤泰一郎、柳芳太郎、斉藤遊雲、藤岡林

城、斉藤春夫、中野信治、小板橋寛、神

保冷平、神保重夫、小板橋幸、阿久沢孫

市、高橋平三郎、鮫島信雄、根岸ちさと、

市村米男、相場光郎、富岡隆治、茂木新

太郎、池田広二、大竹正美、青山丈夫、

坂上安太郎、永井澄夫、小林新治、佐野

金作

30日(水)

朝④農村社会教育を青年訓練実施 実生活を

基調として文部省の来年度計画

夕③如何なる童謡を歌はしむべきかすべて

童心に即したものを児童芸術研究会に

て

昭和2年(1927) 12月

1日(木)

夕①日曜学校へ児童の出入厳禁問題となつ

た小学校長 水野文相に信者から抗議

夕①モダンガール嫌はる 髪が延るまで出社

に及ばずと日活でお布令が出る

夕③純真な子供を毒する低級なる悪本を排せ

子供専門本の発行は世界一 低級品はボ

イコットしてよい 倉橋惣三(談)

夕③句三昧「俳句」逸名子

2日(金)

朝③芸術教育の謳歌時代に恵まれ手工科加設

の機運漲り 伊藤教諭引張り風の巻(1)

(12月3日(2))

朝③私娼問題 解決研究六日協議開く

朝④街頭の娼婦 カフエーに恐慌来 余りの全

盛に東京市断然課税に決定す

夕③医者診断を助ける尊い母親の観察力

乳幼児の生活には敏感な母 注意が過ぎ

る上流家庭の児 唐沢医学博士(談)

3日(土)

夕③王様になるまで「童話」(1) 横田桃水

(12月15日(9))

夕③幼児教育の新傾向 富豪の子のみの幼稚

園でない 貧しい家の子も托児所で 文

部省社会教育課 小尾(談)

4日(日)

朝④江戸哀艶史 捨てる漆黒の髪(1) 橋場鮎

刺 (12月29日(22))

夕③国分寺の「俳句・書」 石井仏子

夕③小作争動以前(1) 塚越麗一

(12月25日(3))

夕③銀杏散る日和「詩」 田島嘉之

夕③風景を忘却する「詩」 城哲郎

夕③海賊船海洋破突「詩」 清水房之丞

夕③折靴 妹あき子におくる 渡辺はる子

夕③茅の輪の集ひ 真庭歌庭居にて「記事」

大竹正美／「俳句」 仏子、白蟻、刀水、

洒落、歌庭、至仏、婉外、草丘、楽山／

飛行大会 楽山、やなぎ

夕③佐波秋季歌会「短歌」 南大樹、高野もと

子、菊池義苗、永井澄夫、根岸恒雄、加

藤岸蔵、木村亀道、大沢雅休、福島三郎、

田島嘉之、登山武夫、藤岡林城

5日(月)

朝②生きんが為の物語「講演」(1) 三輪田元

道 (12月10日(6))

6日(火)

夕③子供絵本に望む条件 独逸やロシヤ流が

良いか 英米流が良いか 倉橋惣三(談)

夕③文化の促進は先づ子供時代から 芸術的

萌芽を伸す社会施設が必要 児童芸術協

会

夕③鬼の贈物「童話」(1) 及川亦太郎

(12月13日(6))

7日(水)

朝④続アメリカ土産 日本人の見た日本(1)

鈴木惣太郎 (翌年1月26日(18))

8日(木)

朝④小児の如くにして初めて真理を把ふ 宗

教科科学何の門にても僻見即精神錯覚を
去れ アームストロング(談)

朝④師走の唄「詩」 植村まつ乃

9日(金)

朝③忘年雅集 上毛名流先進後進の新訂盟

10日(土)

朝④政治的社會運動容赦なく処罰 政治季節
を前にして内務省神経を悩ます

夕③時代文化に遅れぬ社會教育を要望す 文
化は加速度的に發展し義務教育のみでは
不充分 文部省社會教育課 小尾(談)

11日(日)

夕③妹のある風景 竹内悦雄

夕③晴れた日「詩」 大槻三好

夕③とせの日旧師に捧ぐ「短歌」 田中幸

夕③唇「詩」 玲児

夕③二人の作家 上毛小説壇回顧 醋地文村

夕③林野貞夫氏の民謡集 柳芳太郎

夕③少女達、さくら「詩」 小野忠孝

13日(火)

夕③春を待つ「詩」 柳芳太郎

14日(水)

朝③明治詩史屏風(1) (12月17日(4))

夕③このごろ「詩」 平井芳郎

夕③みんな間違ひだ「童話」(1) 深山晃

(12月23日(9))

15日(木)

朝④国民的の解放運動を基礎とする二大波動

印度と支那に大革命あらん 共産党大会
でプーリリン氏が予言す

夕③近代文化が生んだ変質者を教化せよ 社
会的優者に教育の要なし 変質不良の輩
にこそ尚必要 富士川游(談)

16日(金)

夕③鳥と李十「童話」(1) 柳芳太郎

(12月18日(3))

17日(土)

夕③冬ごもり「詩」 市丸武二

18日(日)

朝④犯罪や不良の増加は人類の変態的現象
機能素質は進化もし退化もする 現代の
人類は墮落の道程にある 富士川游(談)

20日(火)

夕③開かずの箱(1) 横田桃水(12月24日(5))

21日(水)

夕②失業知識階級の為め身上相談所を新設す
就職率は殆ど絶望に近く社会局頻りに
対策を講ず

夕③うゝ寒い「詩」 桜井長幸

22日(木)

夕③列強国日、英、米の結婚と女性の権利 女
権の競争か軍縮か まづく泰平の兆だ

夕③あかい椿「詩」 狩野とみぢ

24日(土)

夕③少年児童と映画に制限と規定が必要 英
はホームプログラム 独逸は少年観覧禁
止法 文部省社會教育課 小尾(談)

25日(日)

夕③惡指導者を読んで 黒井平太

夕③初冬の宵「詩」 岡田湊

夕③おもいで「詩」 土屋与志緒

夕③つりざををすて「詩」 美智

夕③松村氏の民謡集その他 柳芳太郎

夕③哀唱「短歌」 藤倉肇

夕③弟を歌ふ「短歌」 松浪

夕③旅窓「短歌」 深尾骸骨

夕③病児を抱きて「短歌」 須山藤十郎

夕③竹林「短歌」 佐藤恒雄

夕③老ひたる母「短歌」 森村白楊

夕③編集末筆 やなぎ

27日(火)

夕③富豪の家庭の児に冬の弱虫が多い現象
病気の予防に積極消極あり 寒さを恐れ
るはよくない 唐沢医学博士(談)

夕③東宮氏の好著を推す「オーガンの構造と
修理並にストツプ使用法」 一記者

夕③わが為に「短歌」 阿部四郎

夕③こがらしの「短歌」 宮下安太郎

昭和3年(1928) 1月

1日(日)

⑤万歳期延年「書」 飯塚啓

⑤龍「書」 中村不折

⑥酩酊時以上に自制心を失ふ危険な月経時の
興奮 悲劇の好題材 嬰兒殺し婦人と犯
罪の種々相に就いて 島岡利二(談)

⑥新らしき家「短歌」 竹内茂登子

- ⑥ 龍に因んだ玩具 支那に多く日本に少く今
後も次第に減る許り 藤井頼水
- ⑥ 民衆的な床飾り 南天の縁起 常緑で晴れや
かな点が松と並んで喜びの表徴 増田貞椿
斎(談)
- ⑥ 龍の王子と妃「童話」(1) 白井史郎
(1月10日(3))
- ⑥ 初春雑詠「短歌」 藤園香里
- ⑦ 演劇は如何に動く 佐藤雪夫
- ⑦ 平爾比多夜麻「短歌」 須藤泰一郎
- ⑦ 習作時代の横顔 飯島貞
- ⑦ 冬来「短歌」 南大樹
- ⑦ 或る友の手紙 隆橋加津夫
- ⑦ 年玉や「俳句・書」 巖谷小波
- ⑦ 袂を切る 伊東伊豆
- ⑦ 月夜「詩」 岡部宇一郎
- ⑦ 噴水「詩」 降旗足穂
- ⑦ 麦踏「詩」 田島嘉之
- ⑦ 粉屋の娘「詩」 萩男
- ⑧ 幕末寄聞 婿選み試合 端山野作
- ⑧ 支那伝説 龍成金 瀬川為蝶
- ⑧ 歌抄「短歌」 久保田俊
- ⑧ 江戸哀艶史 意地と張の女一代(1) 橋場鮒
刺 (2月7日(29))
- ⑨ 福の神の多い我日本 七福神は足利時代に
始まる 仏教から出た福の神も多い 瀧川
御代人
- ⑨ 新年雑詠「俳句」 岡田鶴年
- ⑬ 映画漫談 昭和三年映画界予言 杵間道人
- ⑬ 虚無僧「詩」 岡田美奈登
- ⑬ 冬籠り「俳句」 逸倉
- ⑬ 龍の珠「落語」 立花屋橘三郎
- ⑬ 句抄「俳句」
3日(火)
- ⑬ 恋無情(1) 国枝史郎
(1月10日(7))
- 5日(木)
- ⑬ 山色新「書」 松村琴莊
- 7日(土)
- ⑬ 年頭洒落十八番 狂歌や語呂合せ 狂句そ
の他
- ⑬ 昭和の新しい日本と国民体育の向上 国際的
競技の真目的は何か 女子体育の発展と
優秀国民 陸軍中将 井上一次(談)
- ⑬ 正月に因んで暦のお話
- ⑬ 漫談 伊香保温泉(1) 市丸武二
(1月10日(2))
- 8日(日)
- ⑬ 社地に湧いて「俳句・書」 関口雨亭
- ⑬ 昭和と新政と国民の政治的覚悟 政界革新
の機到来す 床次竹二郎(談)
- ⑬ 新春歌抄「短歌」 阿部鳩雨、藤岡林城、
吉田緑泉、田島武夫、南大樹、中曾根白
史、内野保禄
- ⑬ 帰途 杉田謙作
- ⑬ 田舎男「詩」 針谷章三
- ⑬ 受附 渡辺はる子
- ⑬ 赤城逆風「詩」 村山徳栄
- ⑬ 初なぎの「俳句・書」 白田亜浪
- ⑬ 仇討の夢一幕「戯曲」(1) 井田貞衛
(1月15日(2))
- 10日(火)
- ⑬ 輝しい我等の国旗 日の丸の旗の由来 千
二百年昔の日の丸 薩摩の軍艦の日の丸
- ⑬ 舟を上げハ「俳句・書」 萩原井泉水
11日(水)
- ⑬ 正月の活動見物に子供の同伴は禁物 キ
ネマの教育価値と害毒 家庭教育上重大
な問題 森島順之助(談)
- ⑬ 日本の神話から海さちと山さち 龍宮に
行つて釣針を探す話
- ⑬ 初雑煮「詩」 市丸武二
- ⑬ 雪の夜ばなし「童話」(1) 井上康文
(1月24日(10))
- 12日(木)
- ⑬ 育児と室内装飾 色調と精神生活 各色に
就ての心理学的研究 青緑色の系統が最
も無難
- ⑬ ひとつの願ひ「詩」 南雲義人
- 13日(金)
- ⑬ 自然に歌ひおどる それが子供の本心 そ
れは未来に深遠な芸術を創造する根本
東京児童芸術協会
- ⑬ かきぞめ 柳原白蓮女史「写真」
- ⑬ 避妊法を行ふことは不道德の極みである
授乳を続けければ妊娠率減少
- ⑬ 親方さん「詩」 柳芳太郎
14日(土)

朝③漫談 臨時雇日記(1) 前橋商業生徒 生田

利雄

(1月22日(6))

夕②男を尻目に女大生の売行き 津田英学塾
は一人も残らぬ就職難を知らぬ女学生界

夕③漫画の筆初め 岡本一平画伯「写真」

夕③医者や薬よりも予防と看病が大切 戦後の独逸の新しい傾向 古い東洋流の養生が再生

夕③煙草屋の娘「詩」 古屋三郎

15日(日)

夕①文壇の大御所菊池寛と久米正雄 社会民衆党を背景に政界の陣笠として出馬説

夕③七日会詠草「短歌」 浦上山夫、住谷三郎、須藤泰一郎、富沢美出子、藤岡林城、大沢雅休、角田蒼穂

夕③近想二記 北浦基八

夕③書読みに夜を明して「短歌」 角田節子

夕③憧憬の断影 中曽根白史

夕③待てば待つ縁、お貝、別れの船「民謡」

西川林之助

夕③平戸の町「詩」 小野忠孝

夕③初冬の錯念「詩」 岡田湊

夕③月短章「詩」 市川玲児

夕③宮子短歌大会「記事」 金子／「短歌」 須

山藤重郎、野口市郎、南雲紫舟、石原暁星、鈴木嘉納女、細谷三郎、萩原千代、大沢登志子

18日(水)

夕③電化が先づ我が国文化の第一階段 電化

には何を措いても需要者と供給者の提携

逓信省電気局長 村井二郎吉(談)

夕③干支に因んだ龍の玩具 素晴らしい支那の龍鳳 奇抜な伏見の玉取り

19日(木)

朝④恋の町(いかほ小唄)「歌謡」 市丸武二

朝④国家的に救済すべき現時の不良少年

20日(金)

夕③赤い日ぐれ「詩」 狩野とみぢ

21日(土)

夕③野火「詩」 宮沢錦子

22日(日)

夕③思慕と反逆(1) A序曲、Bいととき人へ、

Cピアノの前に立ちて、D花嫁に、E芸術の生命、I生、J道徳からの解放、K走つてはいけない、F寂しき、G美とは、H稚氣、L旅、M 横堀真太郎

夕③乗附野「短歌」 浦上山夫

夕③自殺、スイートピー「短歌」 藤倉肇

夕③駄言 村山徳栄

夕③母なる紅雀「詩」 ロバートバアンス 清

水房之丞(訳)

夕③午前「詩」 柳居青児

夕③冬の公園「詩」 坂本伸一

夕③風がふいてる「詩」 神倉長次郎

夕③冬の日「詩」 尾内たつ緒

夕③アポラックスモ 深沼弘胤

夕③原市町短歌会「記事」 古仙／「短歌」 浦

野久子、小板橋幸、田島とみ子、新井古

仙、石黒、富田重子、高麗栄子、飯塚き

ん子、吉岡一峰、石井米子、塩原美智夫、

佐藤噫沙夢、富田順

23日(月)

朝③普選の歴史に忘れられぬ日向君 議会で
は第一に唱道と尾崎行雄氏語る

24日(火)

朝③子供ばかりでなしに愛の光りを男性にも
清く正しく垂れよと粹市長 竹内さん婦
人会で宣言

夕③唄女の恋「詩」 市丸武二

25日(水)

夕①日本で始めての女経済学士 此の春九大
法学部を卒業する横浜出身の織部登代子

さん 論文は資本蓄に関する研究

夕③婦人の職業に観る時代の新傾向 考案職
業をもつのを恥とせぬ 勤めよりも手に
職を得る

夕③狐を捕へた正太「童話」(1) 幡谷澄男

(1月31日(5))

26日(木)

夕③鬼と龍の話 樋口紅陽

夕③友禅の振袖「詩」 狩野とみぢ

27日(金)

朝④都市少年就職心理 師弟的修業を嫌ふ 華
美な百貨店や会社へ目前の安楽が目標

夕④一年の入場者三百万 物凄い活動写真の
流行振り 県下の「時代の寵児」の現況を

語る県保安課の示す数字

夕④続アメリカ土産 紐育からワシントンへ

(1) 鈴木惣太郎

へ3月1日まで確認、回数不明へ

28日(土)

朝②児童の心理特別講演御聴取 倉橋文学士
を離宮に召して御熱心に

29日(日)

朝④健康新道 精神医学提唱(1) 千葉弘道

へ2月26日(23)まで確認へ

夕①御代始めの歌会御儀

夕③放浪論(1) 竹内悦雄

夕③奉加帳「短歌」 横山良輔

夕③三山書屋雑信(1) 大沢雅休

(へ2月5日(2))

夕③雪女郎「詩」 下島奎生

夕③大槻三好兄の処女歌集「白墨の粉」を素

読みして 柳芳太郎

夕③初市所見「短歌」 池田広二

夕③夜汽車 井田貞衛

夕③みやま短歌大会記「記事」 植村祐三／

「短歌」 植村祐三、青山丈夫、植村美津

子、左部千馬、松井己丸、高橋平三郎、

見城貫一、竹ノ内菊松、阿部鳩雨、高橋

繁、原沢英、勅使河原のり子、倉橋誠一

郎、大沢雅休、藤岡林城、松山妙子、茂

木歌生、平井真二、植村きよ女、横山良

輔、茂本新太郎、植村婉外、大竹正美

31日(火)

夕③子供と成人の心理 遊戯を如何に観る 遊

戯は子供の世界 環境凡て遊戯の具 倉

橋惣三(談)

夕③普選と映画(1) 佐藤雪夫

(へ2月1日(2))へキネマへ

夕③荒浪地獄「講談」(1) 梧道軒円玉(演)

(へ6月4日(119))

昭和3年(1928) 2月

1日(水)

夕③文明国に重症者なし 家庭医学と売薬 売
薬の多い程文明国 医学の家庭化が必要

夕③鶏とさそり「童話」(1) 臼井史郎

(へ2月4日(4))

2日(木)

夕③旅の列車中にて「詩」 平井芳郎

夕③薫り「詩」 内野保禄

4日(土)

朝④建国祭を迎へて 御即位の大礼を寿ぎま
つりて最も意義深き時 高島米峰(談)

夕①日本最初の婦人法学士 新学期から開設
する明治大学的女子部で法律政治を主と

して教授

夕③早婚だった田舎にも今は老嬢の悲哀都
も田舎も教養ある婦人ほど縁遠い

夕③喰ふ詩「詩」 内野保禄

5日(日)

朝①極みなき恋「小説」(1) 柳原燐子

(へ7月16日(154))

夕③放浪論(2) 竹内悦雄

夕③土工長屋「詩」 山内恭三

夕③人群創生「詩」 小野忠孝

夕③歌集「白墨の粉」 永瀬英一

夕③故郷へ 黒岩喜代司

夕③瀧川短歌会「記」 孤雀／「短歌」 辰己

赤夫、天田孤雀、中沢兼子、関寛、原田

源次郎、天田与一、野口市郎、福田保夫、

小林佐美子、小野里照親、大堀富士郎、

相原光子、大堀むめの、井田文子、宮下

安太郎、阿久沢孫市、相原久米子、川端

刺青、大堀花穂、長井澄夫、天田彰、福

島三郎

7日(火)

朝④愛児の登校準備や正月の失費取返し 油
断ならぬこの頃の衛生 そろそろ来る春

の用意 小童生月二月の家庭心得 大塚

はま子(談)

朝④映画に対する家庭人の態度 立花高四郎

朝④赤い扇「童話」(1) 成田龍平

(へ2月11日(5))

8日(水)

朝②閨秀歌人として勝れた文想をもつた九条

武子夫人

朝④江戸哀艶史 燈火に絡はる怨念(1) 橋場

鮎刺

(へ3月3日(22))

夕③入学前愛児に算術や読方を教へるのには
詰込み暗誦教育は百害あつて一利ありま
せぬ 内藤治先生のお話

9日(木)

夕③何故今年の雛祭に御所人形を飾るか御所人形の由来 御代の初に賜ふ 風俗研究所長江島務氏のお話

10日(金)

朝④建国の精神に還れ 丸山鶴吉(談)

11日(土)

夕③わが子の盗みをどう矯正するか 叱り責めるは第二とし先づ原因動機を見よ 子供には特殊な欲求がある

14日(火)

夕①一代の麗人九条武子夫人の葬儀は如月の風寒き十三日築地本願寺で

夕③現代的家庭読物に外国の雑誌を歓迎向上した婦人の文化 流行美容住宅の趣味 夕③沈黙なるホルマン「童話」(1) 金子光晴

(2月17日(4))

15日(水)

夕③自然的な乳児栄養 母乳の成分と特質 神が与へた此の特徴 初乳と真乳と其成分

16日(木)

夕③記憶のわるい方へ特に食物に御注意を 竹内一郎(談)

夕③映画と民衆教化 教会で標準映画

(キネマ)

17日(金)

夕②毛色の変つた弁士 武七派の小林諦亮君「生きる悲哀」の発行者 繙帯姿で大童 夕③最も進んだ診断学 手相で疾病を知る 東

洋の手相占も現代科学の極致と偶然一致

夕③雪「短歌」内野保禄

18日(土)

夕①本紙の執筆者白蓮夫人が夫君宮崎龍介氏の為に演壇に立つて一席

夕②教育映画を使用 民衆娯楽改善 御大典映画の作製に文部省が準備を急ぐ

夕③病氣してからでは遅い乳児の衛生 厚着させず吞過さぬ様注意第一 吉岡弥生(談)

夕③春の雪「詩」狩野とみぢ

夕③綱渡りの少年「童話」(1) 井上康文

(2月22日(3))

夕③源平屋島の戦や聖徳太子薨去 道真公や清麿も薨ず アメリカ船は下田にきた二月の歴史しらべ へこどものよみもの

19日(日)

夕②修善寺より 北甘閑人

夕③放浪論(3) 二、放浪インスピレーション 竹内越村

夕③あひゞき「詩」森千魁

夕③儚いたより「詩」佐藤はる子

夕③きさらぎの窓より 田中幸子

夕③おらが稼業「詩」市丸武二

夕③七日会詠草「短歌」浦上山夫、富沢美出子、温井武治、住谷三郎、須藤泰一郎、

角田蒼穂

夕③青山峽抄「短歌」藤岡林城

夕③如月哀唱「短歌」塚越麗一

夕③寂情「短歌」田村秋二

夕③早春歌抄「短歌」小板橋幸

夕③幼かりし日「短歌」松浪

夕③歌三首「短歌」中村辰雄

夕③雑信 芳太郎

21日(火)

夕③四月登校の愛児に是だけはしつげよ 自分と両親と学校の名前 今から早起きの おけいこ 南条尚(談)

夕③聖上陛下ことしも続けて稲を御作り

(コドモノヨミモノ)

22日(水)

夕③舶来品不買申合せ 金指輪無用の決議 まひるの電灯を消してあるく女学生の会 最近欧米婦人会の活動ぶり

23日(木)

夕③アメリカの化粧代 一年間に二十億弗助からぬは御亭主殿 化粧亡国虚言でない

夕③淋しい子「詩」柳芳太郎

夕③赤い糸「童話」(1) 井上康文

(2月28日(4))

夕③俳句に現はれた雛祭の縁起(1) 伊藤月草(談)

24日(金)

夕③お雛祭りは高尚な母性愛の表象です 大和民族の大いなるほこり 床しき行事の 家庭的意義

夕③公園の土手で「詩」平井芳郎

夕③真剣に経て来た体験を根底に現代女性生

活の批判をなさんとする石丸夫妻 前橋
婦人会講演会の内容

25日(土)

夕③世界に名高い日本のお雛祭り いづころ
からはじまつたのでせうか? お雛祭り
の歴史しらべ
〈こどものよみもの〉

夕③おうまみち「童謡」柳芳太郎

26日(日)

朝④白雲の「俳句・書」高橋香山

朝④放浪論(4)三、理想過程として放浪 竹
内越村

朝④フランスある少女に贈る「詩」小野忠
孝

朝④早春のうた あほらしい平和「詩」長岡
寅之助

朝④憂鬱なる散歩 冬の日の高崎 上田えい
じ

朝④或る日の思ひ出(1) 堤元太郎

(3月18日(4))

朝④友情、白柿、霊にこもりて「短歌」高橋
平三郎

朝④春愁 島岡利二

朝④中之条の集ひ「記事」香山／「俳句」十
剣、松影、梅窓、寿山、澱水、香山

朝④余録 芳太郎

28日(火)

夕③飲酒家の子孫に不肖者が何故多い 恐る
べき組織細胞の変質現象 畢丸及び卵巣
障害と不妊原因 松浦医学博士(談)

29日(水)

夕③心づくし 芳兄を慰めて「詩」市丸武二
夕③もの知り博士「童話」(1) 畑喜代司
(3月7日(6))

昭和3年(1928) 3月

1日(木)

夕③不正商人征伐の会 妙案のお洗濯組合そ
の他各種の研究會や樹を植江る會など
最近欧米婦人會の活躍ぶり

夕③流し目「詩」森千魁
3日(土)

朝④読書界の傾向 大衆文学が第一位 日比谷
図書館調べ

夕①教育界の輿論は私学組織完備 改正試験
制も遂に入学難を救済せず

夕③ヴィタミンAを摂れば産児率が多くなる
乳もよく出る 妊娠中の注意 東京理化
学研究所調べ

夕③春の風「詩」狩野とみぢ
4日(日)

朝④江戸哀艶史 牡丹畑に狂ふ妖蝶(1) 橋場
鮎刺 (4月3日(25))

夕②古代文学と詞曲 ほけに就いて 折口信
夫(談)

夕③百日咳「短歌」須藤泰一郎

夕③二月の感想 A似而非の人道主義者、B
民謡、C殴られる彼奴、D桔梗 塩野荀
三

夕③鴉「詩」神倉長次郎

夕③子供の生活記録と現代社会相 石丸喜世
子

夕③放浪論(5) 四、放浪はヒロイズムであり
得るか? 竹内越村

夕③寂心断想 角田節子

夕③東毛歌壇二月抄「短歌」大槻三好(選)

栗原啓次郎、栗原ひで子、関口溪泉、
萩野八重子、長尾きよし、小林たか子、
西場登旭、斉藤静江、高橋徳次郎、松沢
和一、塩原藤太郎、木村富士江、木暮緑
子、矢間貴夜子、木暮みゆき、長尾照司、
丸山きよし、春本隆子、関根不二

5日(月)

朝②文豪ダ氏重態陥る

6日(火)

夕③憎まれ者の薊が手柄をした話 久留島武
彦のお話

7日(水)

朝③丹生処女會を見学した埼玉県 女子青年
団員から岡部さんへ感謝のかずく

朝④地方民を苦める地方債の膨張

夕②工場に働く女工さんにも力強い自己の眼
覚め 相愛館最近の繁昌振りに社会事業
協会で大拡張の計画

8日(木)

朝④不合格になつても決して悲観するな 敢
然と職人になれ 労働者に自殺なし 東
京職業補導會参事 市川為二(談)

朝④春愁「詩」市丸武二

朝④石楠浦和盟楠会「俳句」(1) ム弓、九星、

枯柏、乍人、古歌、遊楊、冬良、龍泉

朝④不思議な木の実「童話」(1) 中西悟堂

(〜3月14日)(5)

9日(金)

夕③山の子供よ「詩」 柳芳太郎

夕③社会問題中の大部門 職業婦人の保護施設(1) 遊佐敏彦(談) (〜3月10日)(2)

夕③石楠浦和盟楠会「俳句」(2) 芳陽、対月、

一磨、烏江、濤々子、城南、四甕、汐慕、

瀑々、鐘一路、楓花、碧艸、磯部楓花(選)

芳陽、対月、枯柏、ム弓、古*、矢田枯

柏(選) 乍人、楓花、鐘一路、ム弓、対

月、萩本ム弓(選) 楓花、九星、芳陽、

対月、楓花

10日(土)

夕③影法師「詩」 南雲義人

11日(日)

夕③七日会詠草「短歌」 須藤泰一郎、池田広

二、富沢美出子、住谷三郎、角田蒼穂

夕③思慕と反逆(2) N僕の話、O矛盾、P涙

と思慕、Q我等！存在するか？、R死、

S遠山を慕ふ、T未来への宣言、U春暖

かい日、V恋愛、W屈辱、X男と女、Y

慣習と形式、Z終曲 横堀真太郎

夕③ゆがんでゐる話(1) 畑村城次郎

(〜3月18日)(2)

夕③みぞれ「詩」 土屋与志緒

夕③放浪論(6) 五、無意識的放浪及び意識的

放浪 竹内越村

夕③離れ居「短歌」 植村美津子

夕③歌集白墨の粉出版記念小影

夕③吾子を潤一と名づく「短歌」 榎田薫

夕③雑誌 芳太郎

13日(火)

朝③農村の副業に椎茸の栽培は好適 岡部栄

信氏語る

夕③新生児には速に種痘で免疫せよ 天然痘

流行と親の愛護 七十五日後は何時も可

吉岡弥生(談)

夕③低脳児は家庭にて学齡迄に矯正せよ 年

に於いて發育不全に注意 普通児と異つ

た点を發見せよ

夕③からたち「歌謡」 柳芳太郎 堤幸三郎作

曲

14日(水)

夕③生活への段階的な玩具を与へられよ

15日(木)

夕③柳原白蓮女史噂の映画

夕③頭を打ち割つて緋縮緬が出た話「童話」

弓場駒二郎

16日(金)

夕②女工さんに同情 相愛館へ贈書 匿名の人

の此の特志 江原女史感謝して語る

夕③キネマに牽れ行く多数の都市児童 文部

省社会教育課の調査 小中学高女生徒と

映画党

夕③浅緑「詩」 柳芳太郎

夕③山姫から貰つた珠「童話」(1) 白井史郎

(〜3月24日)(6)

17日(土)

朝④児童の教室掃除は学校衛生上に有害精

神訓練にはならぬ 問題は経済上の関係

夕③よき遊びの生活が幼稚園の本領です 学

校や家庭の代理ではない お芋の洗ひ方

と幼児の保育 森島前橋幼稚園長(談)

夕③良母は常に心して子供の糞便を見よ 糞

便は健否を適確に示す 乳幼児期の糞便

の種々相

18日(日)

朝④放浪論(7) 六、結論 竹内越村

朝④花「詩」 市村京之介

朝④プロムナード(対話篇)(1) 新井哲夫

(〜3月25日)(2)

朝④劇と舞踊と音楽の会「告知」

朝④陸軍記念日 新井中佐にをくる「短歌」

飯島貞

朝④相聞「短歌」 高橋平三郎

朝④凍る石「短歌」 鈴木葦舟

朝④春彼岸「短歌」 天田孤雀

朝④街頭小歌「短歌」 藤倉肇

朝④二月集「短歌」 田村秋二

朝④哀悼「短歌」 松浪

21日(水)

朝④「腕に職」を望む志願多く少年職業相談

所に給仕小僧の希望者が激減す 世智が

らい時代相の一面か

夕③恋愛と結婚に就て 東京高等北川教授の

情死(1) 岡田怡川 (3月23日(2))

23日(金)

夕③時勢に順応せる社会教育の必要 義務教

育のみで終る大多数に対する施設 小尾

文部省社会教育課長(談)

夕③神の様だ

24日(土)

夕③童謡一つ「童謡」 茂木近之助

25日(日)

夕③憂鬱悲観(めらんこりつくいんたあぶ

りていしよん おぶひすてりい) 根岸

時雍

夕③ゆがめる胸「詩」 岡田美奈登

夕③濁路 津田秀夫

夕③籠り家「短歌」 植村美津子

夕③みづ歌会「短歌」 天野赤陽、岡田清、

高山貞夫、金子宗作、高山澄子、古屋三

郎、小黒二千露、古屋栄吉、大友賢六、

高山要、小見赤子、大友農夫二、池田広

二、船津重雄

26日(月)

朝③上野の水彩展で上州人の為に気を吐く大

竹君の入選

27日(火)

夕①注目される婦人参政権

夕①この事実を視よ 霊岸小学校長 椎名龍

徳(談)

夕②貸座敷業者も娼娼に反対しない時代の

趨勢と断念して

夕③近來益々著しい女子教育の発展振 欧州

大戦後の欧米婦人の実力 我が婦人も今

後は社会的活動 嘉悦孝子(談)

夕③雲雀の鳴声を三人で聞いた話「童話」

弓場駒二郎

夕③遊戯心を充す物なら何でも玩具になる

精巧品は只其丈の事 自然的の物が良い

28日(水)

夕③嬰兒の愛育には心身の観察を行へ

夕③蝶が飛ぶとは「詩」 平井芳郎

夕③地方色を唄った我が国の子守唄 母性愛

から流れる音節 方言に表はれた人の心

夕③人魚と笛「童話」(1) 横田桃水

(4月3日(5))

29日(木)

夕③家庭教育としてのキネマ愛好矯正 少年

時の興味転換策 悪癖でも矯正出来る

堀お茶水幼稚園主事(談)

夕③日本の子供雑誌は趣味に偏してゐる子

供にはもつと多方面なものを

30日(金)

朝④各婦人団体が公娼廃止運動

夕③特に注目すべき乳幼児の死亡率 其の原

因と防止策 救済機関設備が急務 斉藤

智二(談)

31日(木)

朝④独逸各大学で日本精神文化講座 鹿子木

九大教授献身的に活動する

夕③山の温泉「詩」 狩野とみぢ

夕③春先の神経衰弱と総合的の療法概説 葉

食物及物理的療法 最も必要な精神療法